

近代粵語遇攝の二重母音化と早期粵語資料

竹 越 美奈子

愛知東邦大学

近代粵語遇攝の二重母音化と早期粵語資料*

竹越美奈子**

1. はじめに
2. 『分韻』から現代広州音へ
3. 遇攝の二重母音化
 - 3.1. Morrison (1828)
 - 3.2. Bridgman (1841)
 - 3.3. Williams (1842)
 - 3.4. Bonney (1854)
 - 3.5. Williams (1856)
 - 3.6. Devan (1858)
 - 3.7. Chalmers (1859, 1878, 1891)
 - 3.8. Ball (1883)
 - 3.9. Stedman & Lee (1888)
4. 小結

1. はじめに

現代広州語は、19世紀に3つの高母音の二重母音化 (u>ou, y>œy, i>ei) を経験した。(李新魁等 1995他) 個々の変化に関する先行研究としては、i>ei の変化の時期と過程を詳細に述べた陳万成・莫慧嫻 (1995)、高田時雄 (2000)、u>ou の変化に関する竹越美奈子 (2017) がある。一方3つの変化の順序に関しては、丁国偉 (2007) が u>ou と y>œy の変化はほぼ同時期、Morrison (1828) には始まっており、i>ei はそれより遅く Ball (1883) の時からであると指摘しているのに対して、羅言発 (2013) は u>ou が最も早く、i>ei は1855年¹に非見系声母字にのみ見られ、y>œy と i>ei が現在の形になるのは Ball (1883) の時代だとしている。いずれも主として字典などの整理された発音を資料としているため、個別の漢字や使用条件における詳細な違いは不明である。

筆者はこの3つの変化のうち u>ou に関して分析した結果、效攝に所属する字は19世紀初頭からすでに現在と同じ[ou]であったのに対して、遇攝に所属する字は19世紀を通じて変化が進行し、Morrison (1828) で始まって Ball (1883) で完成したこと、広州語では、書面語・外来語・固有名

* 拙文は、第10回漢語方言研究会 (2018年3月18日神戸山手大学)、第11回漢語方言研究会 (2018年8月27日近畿大学) での口頭発表がもとになっている。席上貴重なご意見をいただいた諸氏に感謝申し上げます。

** 愛知東邦大学経営学部

¹ Chalmers (1855)

詞などに保守的な発音が残る傾向があり、これと対照的に下位方言、たとえば1900年の順徳音では文語層が先に変化しており、これには上位語である広州語の影響が考えられることなどを指摘した。(竹越美奈子 2017)

小文では主として遇攝に起こった $y > \text{œy}$ の変化が19世紀資料にどのように反映されているかを調べ、同様に遇攝に起こった $u > \text{ou}$ の変化と比較し、両者の変化の時期と条件について考察する。

2. 『分韻』から現代広州音へ

現代広州語²で、遇攝三等韻は声母の違いを条件として[y] (知章日疑影母) と[œy] (泥精見曉母) に分かれている。そして[œy] (泥精見曉母) の方は止攝・蟹攝の一部と合流している。これらの字は、現存する最古の粵語の韻書である『分韻撮要』(以下『分韻』)³ ではそれぞれ第4韻(遇攝三等)、22韻(止攝と蟹攝合口三等)、28韻(蟹攝合口一等)に所属している。(表1, 2, 3, 4参照) 表5に見られるように、遇攝三等知章日疑影母は19世紀の資料を通じて一貫して単母音(推定音価*[y])⁴ で表記されているのに対して、遇攝三等泥精見曉母は単母音と二重母音の表記が混ざっており、この時代にまさに変化が進行していたことがわかる。またこれと対照的に『分韻』で22韻と28韻に所属していた字はそれぞれ各資料によって違いはあるものの、すべて二重母音の注音がされており、19世紀を通じてその音価について変化はあったものの⁵、二重母音であったと考えられる。つまり、遇攝三等泥精見曉母は『分韻』では遇攝三等知章日疑影母と同様単母音であったか、少なくとも同じ韻に入れて不自然でない程度の共通性を有していた⁶のが、19世紀に徐々に二重母音へと変化し、最終的には第22韻、28韻と合流したと考えられる。19世紀を通じて粵語の下位方言資料(表6参照)でも、遇三知章日疑影母は19世紀新寧と19世紀新会を除いて単母音、遇三泥精見曉母は二重母音もしくは単母音と二重母音、22韻と28韻は19世紀と20世紀を通じて二重母音であり、同様の傾向がみられる。以下、表5中の各文献について、遇攝三等泥精見曉母字の変化を個々の字について見ていく。その際、すでに先行研究⁷で言及した、同様に19世紀に $u > \text{ou}$ の二重母音化が起こった遇攝一等字と対比しながら検討する。

3. 遇攝の二重母音化

3.1. Morrison (1828) (表7参照)

遇攝三等泥来精見曉母(「女呂慮取娶須句居鋸舉矩去佢渠虛許」)は全てuyで、この表記は二

² 以下拙文では、基本的に黄錫凌(1941)の音韻体系をもって現代広州語の音韻体系と考え、適宜その他の文献を参照する。黄錫凌(1941)の時代にはほぼ現代広州語の音韻体系が出来上がっていたと考えられている。(張洪年 2003)

³ 彭小川(1992)によれば『分韻』には種々の版本がある。筆者が見たものは道光5年(1825年)(封面による)吳郡虞学圃、武溪温岐石同輯による『江湖尺牘分韻撮要合集』(フランス国立図書館蔵)。この資料は矢放昭文先生よりご提供いただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

⁴ 以下拙文では原則として現代音以外はすべて推定音価である。

⁵ 丁国偉(2007)、羅言發(2013)参照。

⁶ 劉鎮發・張群顯(2003)による第4韻の推定音価は*[y]。

⁷ 竹越美奈子(2017)

重母音を表していると考えるのが妥当である。⁸ 今日広州語で[œy]韻の字は他の韻も含めてほとんど uy 韻である。このことは遇攝三等泥来精見曉母がこの後の資料で単母音と二重母音の表記にゆれがあるのと対照的であるし、同書の中で、[o]の二重母音化が起こった遇攝一等字では単母音と二重母音の表記が混在しているのとも対照的である。遇攝三等泥来精見曉母に関する限り、Morrisonの表記は革新的で統一されていたと言える。

3.2. Bridgman (1841) (表 8 参照)

Bridgman (1841) は大多数の遇攝三等泥来精見曉母字に単母音の注音 ü を付しているが、一部の字(「呂聚須句佢」)に二重母音 ui と単母音 ü の二種類の異なった注音を付している。つまり、場所により ü と ui の場合があり、統一されていない。「呂」は全 4 例のうち 3 例が ü で、1 例が ui である。

「呂」 ü : ~ (xiii : 官話広州語発音対照表), 宋~祖 (xviii : 人名), ~宋 (262 : Spain)
ui : 宋~祖 (xxiv : 人名)

その他「聚」は全 5 例のうち 3 例が ü で 2 例が ui、「須」は全 19 例のうち 16 例が ü, 2 例が ui, 1 例が u⁹、「句」は 8 例中 7 例が ü, 1 例が ui, 「佢」は全 37 例中 25 例が ü, 12 例が ui である。どの字も使い分けにルールは見いだせず、著者の中でどちらの注音を使うか決めがたかった、換言すれば両方の発音が容認されているか、単母音と二重母音のどちらともつかない状態で、まさに変化の途中だったと考えられる。ただし、「佢」に関しては、前半の 12 例がすべて ui で後半の 25 例がすべて ü なので、途中で単母音に統一することを決めたのかもしれない。

以上のことを、遇攝一等韻に起こった[u]の二重母音化と比べると、上にみた[y]の二重母音化は、単母音の表記の方が圧倒的に多いのに比べて、[u]の方は大部分が二重母音である。単母音の表記が付された「奴無務母」はいずれも発音の例字であり、「魯蘇素」は人名や書名である。これらの字は他の場所では二重母音になっていることもあり、すでに大半は二重母音の発音であるが、規範意識と文語層には古い層の発音が残っていたということだろう。

「魯」 ú : ~明善 (xxviii : 人名)
「蘇」 ú : ~頌 (xxix : 人名), ~轍 (xviii : 人名)
「素」 ú : 黄帝~問二十四卷 (xxviii : 書名)

実際 Bridgman (1841) は『分韻』第 12 韻について「半分以上の字は[u]から[ou]に交代しているが、英語の *so* や *no* 中の *o* のような、両者の中間のどこかの音であり、単母音、二重母音どちらの記号を使うべきか決めがたい¹⁰ と発音が変わっていることを意識しているが、第 4 韻につい

⁸ Morrison (1828) の音韻体系を整理した丁国偉 (2006) によれば、uy の推定音価は[œy]。なお、丁文によれば同書の韻母には 73 種類のローマ字があてられているが、同じ韻母に対して異なった表記が用いられている場合もあり、それらを整理すると 54 韻母で、これは数例を除いて現在の広州語とほぼ同じ体系である。この中に i の二重母音化である[e]はまだ含まれない。i>ei については稿を改めて述べたい。

⁹ 誤植の可能性が高い。

¹⁰ Probably in more than one half of the words forming this order, the *ú* ([u]) is exchanged for *ò* [ou]; and

ては「単母音であるが、ときどき第22韻とまぎらわしい例もあり、注意しなければならない」¹¹と、あくまで二重母音ではないと認識している。

3.3. Williams (1842) (表9参照)

Williams (1842) は Bridgman (1841) の音韻体系を基本的に踏襲して、それに多少の修正を加えている。その結果、Bridgman (1841) で一部二重母音であった遇攝三等泥来精見曉母字はすべて単母音に統一されている。Bridgman (1841) に二種類の注音が混在していることから、一部二重母音のように聞こえたことはほぼ間違いないが、それはまだ正式な発音として採用するほどではないと判断したのだろう。これと対照的に、遇攝一等韻のほうは原則として二重母音に統一されており、単母音で表記されているのは発音や漢字の例字（「無母務路」）と国名や人名など文語層で使用されるときのみである。そしてBridgman (1841) と同様に、Williams (1842) も第12韻については発音が『分韻』の時代から変化していることを認識している。¹²

3.4. Bonney (1854) (表10参照)

遇攝一等も三等も単母音と二重母音の両方の注音が見られる。Bonney (1854) は語彙集で、Bridgman (1841), Williams (1842) とは違う注音システムを採用している。そしてその音韻体系は両書ほど整理されていない。逆に言うと人為的な整理は加えられずに進行中の音韻変化をそのまま反映しているとも考えられる。どちらの発音も容認されていたようだが、規則性は見いだせない。ただ、登場回数が多い語——「女」(daughter, woman どちらの意でも)、「去」(go)、「佢」(she, he)——は全て単母音であるということは指摘しておきたい。規則性が見いだせないのは、遇攝一等も同様であるが、他の資料でも他の字が二重母音化しても単母音で記載される傾向のあった以下の語彙に関しては本資料でも単母音である。¹³

「菩」 oo : ~薩 (Bonney 1854 : 12, 80, 90 他多数 : idol, 固有名詞)

「穌」 oo : 耶~ (Bonney 1854 : 7, 11, 13, 53, 84, 94 他多数 : Jesus, 固有名詞、外来語音訳)

many seem to range somewhere between the two, giving the sound of *o* in *so, no, &c.*, so that it is difficult to determine which of the letters *ū* or *ō* should be used. In some cases, the sound of the vowel will be heard approximating to the *ū* by one ear, while by other persons the same word will be sounded as if it terminated in *ō*; most of the words, however, are uniformly pronounced by all persons ending either in *ō* or *ū*. (おそらくこの韻の半分以上の字は[u]から[ou]に交代している。そして多くは、英語の *so* や *no* の単語中の *o* のような、両者の中間のどこかの音のようである。したがって、*ū* と *ō* のどちらの記号を使うべきか決めがたい。ある人の耳には *ū* と聞こえるのに、他の人の耳には同じ語が *ō* で終わったように聞こえるということもある。しかしながら、ほとんどの語は、一様に、だれもが末尾を *ū* か *ō* で発音する。) (Bridgman 1841 : ix)

¹¹ Here the sound of the vowel remains throughout the same ; there are a few instances, however, in which it closely resembles *ui*, in the 22d order ; the two are liable to be confounded, and should be carefully distinguished. (ここでは母音の音価はずっと一定である。が、第22韻の *ui* に似ている例もいくつか見られる。両者はまぎらわしく、注意深く区別しなければならない。) (Bridgman 1841: viii)

¹² Williams (1842 : 54). 竹越美奈子 (2017 : 5) 参照。

¹³ 心母が単母音なのはJesusの音訳語に使われる「穌蘇」の影響と考えられる。竹越美奈子 (2017 : 6) 参照。

3.5. Williams (1856) (表11参照)

本資料はBridgman (1841), Williams (1842) に代表される一連の研究の集大成とでも言うべき大部の分韻字典であり、その音韻体系は非常に整っている。遇攝一等字の変化に対する本字典の態度は前2冊と変わりなく、声母による違いはややあるものの、二重母音化であるとの認識であり、心母を除き二重母音として記載されている。¹⁴ 遇攝三等字についてはBridgman (1841)における「二重母音とまぎらわしいので注意して聞き分けなくてはならない」という記述から一歩進んで、「去侶女聚序」のような字はしばしば第22韻 (ui) のように聞こえるが、他の声母では間違えて発音されることは少ない」(Williams 1856 : xvi)¹⁵ というように具体的に例をあげて発音の変化に言及している。しかしながら、依然として二重母音の発音は「そのように聞こえる」あるいは「発音の間違い」という認識であって、字典上の表記は変えていない。

3.6. Devan (1858) (表12参照)

Devan (1858) は、初学者の役に立つ実用的な語彙集を目指して編纂されたDevan (1847) にW. ロブシャイドが声調符号を足して加筆修正したものである。遇攝三等韻の注音は、「女鋸句居據墟去佢渠」が単母音、「呂娶聚」が二重母音である。注目すべきは、「女鋸句居據墟去佢渠」に関してはすべて *ü* に統一されているが、「呂娶聚」は *öy, oÿ, üy, oy* が混在しており、その使用に規則性は見いだせない。たとえば、「呂」は下の例ではいずれも外来語であるが、違った記号を使っている。

「呂」 *oÿ* : 大~宋人 (Devan 1858 : 8 ; Spaniyard, 外来語)

öy : ~宋烟 (Devan 1858 : 28 ; segar, 外来語)

なぜ、「女鋸句居據墟去佢渠」が単母音で「呂娶聚」が二重母音なのかはわからないが、二重母音の方に数種類の記号が使われているのは、この音がまさに変化の途中で発音の容認の幅が大きかったと考えられる。なお、のちに遇三泥精見曉母と合流する止合三非見系・蟹合三、蟹合一等字の表記も *ooy, oy, oÿ* など数種類あり、変遷が複雑であることを物語っている。この韻の音価については稿を改めて検証したい。¹⁶ そしてこれは、遇攝一等字に関して、本書が非常に整理された音韻体系を見せている——外来語の音訳には旧発音を付し、白話層には新音を付す¹⁷——

¹⁴ 竹越美奈子 (2017 : 6) 参照。

¹⁵ 4. *Chü*, like *sue*, or the first part of the word *choose*. Words in this order beginning with *h, l, n*, and *ts*, are often heard sliding into *hui, lui, nui, tsui*, like the 22d order, as 去, 侶, 女, 聚, 序; those under the other initials are less frequently mispronounced. (第4韻: *Chü*は *sue*か *choose*の前の部分のように発音する。この韻の語で「去侶女聚序」のように *h, l, n, ts*で始まるものはしばしば第22韻のような *hui, lui, nui, tsui*にスライドしているように聞こえる。他の声母では間違えて発音されることは少ない。(Williams 1856 : xvi)

¹⁶ 羅言発 (2013 : 151) は以下のように推定している。

『分韻』		1877年	1883年~	1897年
諸主注	y 去	y (端見系)	oi	øy
雖髓歲	oi 水	oi	oi	øy
魅賄誨	ui 罪	ui	oi	øy

¹⁷ 竹越美奈子 (2017 : 7) 参照。

こととも対照的である。

3.7. Chalmers (1859, 1878, 1891) (表13-15参照)

Chalmers (1859, 1878, 1891) は簡明英粵辞典で、Bridgman (1841), Williams (1842) 等とは違う注音システムをとっている。遇攝一等字に関して、使用状況もしくは発音部位によって新旧の発音を使い分けていたのと対照的に、三等字については「呂」を除いて単母音で示している。「呂」については、下のように、3冊を通じてEmeraldという語のときだけ二重母音である。

「呂」 ue : 小～宋 Manilla (Chalmers 1859 : 88, 1878 : 135, 1891 : 154) ; ~宋 Spain (Chalmers 1859 : 131, 1878 : 209, 1891 : 239) ; ~宋烟 (Chalmers 1878 : 37, 1891 : 42)
ui : ~宋緑 Emerald (Chalmers 1859 : 47, 1878 : 72, 1891 : 82)

「呂」字発音変遷 ([]内は推定音価)

字	呂	宋呂祖	呂宋	小呂宋	呂宋烟	呂宋緑
英語訳	例字	人名	Spain	Manilla	cigar	Emerald
Morrison (1828)	—	—	—	[œy]	—	—
Bridgman (1841)	[y]	[y/œy]	[y]	—	—	—
Devan (1858)	—	—	[œy]+	—	[œy]	—
Chalmers (1859)	—	—	[y]	[y]	[y]	[œy]
Chalmers (1878)	—	—	[y]	[y]	[y]	[œy]
Chalmers (1891)	—	—	[y]	[y]	[y]	[œy]

+大呂宋人

外来語の発音は、その後が輸入された時代の発音を反映している可能性がある。SpainはWilliams (1856 : 256) (単母音) , Devan (1858 : 8) (二重母音)、ManillaはMorrison (1828 : MAN) (二重母音)、Williams (1856 : 256) (単母音)、cigarはDevan (1858 : 28) (二重母音) に登場するが、Emeraldという語については、それまでの資料にないので、この語は比較的新しいのかもしれない。これについても稿を改めて論じたい。

3.8. Ball (1883) (表16参照)

Ball (1883) に反映されている体系は非常に整っており、遇攝に関する限りすべて二重母音で、これは現代広州語と同じである。

3.9. Stedman & Lee (1888) (表17参照)

Stedman & Lee (1888) はニューヨークの華僑の話す広東語で、その音韻体系は著者の一人K. P.

Leeの出身地である中山音の影響を受けている。¹⁸ 遇攝一等字では同じ字でも単母音と二重母音の二種類の注音がされていることがあったが、三等字に関してはすべて単母音であり、これは現代中山音とほぼ一致する。¹⁹

遇攝一等字

	鋪(鋪)	布	部	墓	徒度渡	路炉	租	務
広州	[ou]	[ou]	[ou]	[ou]	[ou]	[ou]	[ou]	[ou]
Ball	[ou]	[ou]	[ou]	—	[ou]	[ou]	—	[ou]
中山	[u]	[u]	[u]	[u]	[u]	[u]	[u]	[u]
珠海	[u]	[u]	[u]	[u]	[ou]	[u]	[u]	[u]
S & L	[u]	[u/ou]	[ou]	[u]	[u]	[u]	[u/ou]	[u]
台山	[u]	[u]	[u]	[^u ɔ]	[u]	[u]	[u]	[u]

遇攝三等字

	女	取	句舉	鋸	去	佢(他)
広州	[œy]	[œy]	[œy]	[œy]	[œy]	[œy]
Ball	[œy]	[œy]	[œy]	[œy]	[œy]	[œy]
中山	[y]	[y]	[y]	[œ]	[y]	[y]
珠海	[œy]	[y]	[y]	[œ]	[y]	[y]
S & L	[y]	[y]	[y]	[y]	[y]	[y]
台山	[ui]	[ui]	[ui]	[ui]	[ui]	[ui]

遇攝一等字については、外来語の音訳語に一字多読の傾向があらわれていて、英語の発音の影響か、広州語からの借用であると考えられる。遇攝三等字に関しては、そもそも収録字が少ないこともあって英語の音訳に使われている例が登場しないのでよくわからない。

4. 小結

以上の結果とその後遇攝と合流した效攝一等字、止蟹攝の状況をまとめたのが表18、表19である。本文中でも述べたように、遇一非見系+遇三微母については早くから二重母音の発音が基本となり、単母音で表記されるのは特定の字や語彙(文語、外来語など)に限られた。これと対照的に、遇三泥精見曉母の方は二重母音と単母音の両方の発音が混ざっているのは同じでも、一定の法則が見いだせない。二重母音の表記もあまり統一されていない。

当時の発音に関して詳細な記述を残しているブリッジマンやウィリアムズも前者については

¹⁸ Cheung (2006) 参照。

¹⁹ 詹伯慧+張日昇(1987)。Ball 1883, Stedman & Lee 1888の推定音価はCheung 2006による。

「『分韻』と発音が違っている」(Bridgman 1841)という認識であったが、後者は「まぎらわしい」(Bridgman 1841)、「しばしば間違えて発音される」(Williams 1856) というように、発音が変わったと認めていない。これは、前者の合流が短期間で完了したのに比べて、後者は長い時間をかけてゆっくりと変化が進行したことの表れと考える。後者の音価と合流までの道のり、およびもう一つの変化である i>ei について考察し、粵語高母音の二重母音化の全容を解明することを今後の課題としたい。

参考文献

早期粵語資料 (年代順)

- MORRISON, R. (1828) *Vocabulary of the Canton Dialect*. Macao: The Honorable East India Company's Press.
- BRIDGMAN, E.C. (1841) *A Chinese Chrestomathy in the Canton Dialect*. 2nd edition.
- WILLIAMS, S.W. (1842) *Easy Lessons in Chinese*. Macao: Office of the Chinese Repository.
- BONNEY, S.W. (1854) *A Vocabulary with Colloquial Phrases, of the Canton Dialect*. Canton: Office of the Chinese Repository.
- WILLIAMS, S.W.(1856) *A Tonic Dictionary of the Chinese Language in the Canton Dialect* (『英華分韻撮要』) Canton: Office of the Chinese Repository.
- DEVAN, T. T. (1858) *The Beginner's First Book, or Vocabulary of the Canton Dialect*. Hong Kong: The China Mail Office.
- CHALMERS, J. (1855) *Cantonese Phonetic Vocabulary*. (『初学粤音切要』) Hong Kong: The London missionary.
- CHALMERS, J. (1859) *An English and Cantonese Pocket-Dictionary, for the use of those who wish to learn the spoken language of Canton province*. Hong Kong: The London missionary society's press.
- CHALMERS, J. (1878) *An English and Cantonese Dictionary, for the use of those who wish to learn the spoken language of Canton province*. 5th ed. Hong Kong: De souza & co.
- BALL, J. D. (1883) *Cantonese Made Easy*. 1st ed. Hong Kong: China Mail office.
- BALL, J. D. (1888) *Cantonese Made Easy*. 2nd ed. Hong Kong: China Mail office.
- STEDMAN and LEE. (1888) *A Chinese and English Phrase Book*. New York: William R. Jenkins.
- CHALMERS, J. (1891) *An English and Cantonese Dictionary, for the use of those who wish to learn the spoken language of Canton province*. 6th ed. Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- DON, A. (1883) The Llin-nen variation of Cantonese. *The China Review* 11(4): 236-247.
- DON, A. (1884) The Llin-nen variation of Cantonese. *The China Review* 12(6): 474-481.
- BALL, J. D. (1889) The San-Wui dialect. *The China Review* 18(3): 178-195.
- BALL, J. D. (1890) The Tung-Kwun dialect. *The China Review* 18(5): 284-299.
- BALL, J. D. (1896) The Hong Shan or Macao dialect. *The China Review* 22(2): 501-531.
- BALL, J. D. (1900) The Shun Tak dialect. *The China Review* 25(2): 57-68, (3)121-140.

中文

- 陳万成・莫慧嫻 (1995) 「近代広州語“私”“師”“詩”三組字音の演变」『中国語文』1995(2):118-122.
- 陳衛強 (2011) 『広州地区粵方言語音研究』広州：暨南大学出版社。
- 丁国偉 (2007) 『1828年至1947年中外粵語標音文献反映の語音現象研究』香港中文大学博士論文。
- 黄錫凌 (1941) 『粤音韻彙 (重排本)』中華書局 (香港) 1991年重印版 (初版1941年)。
- 李新魁等 (1995) 『広州方言研究』広州：広東人民出版社。
- 劉鎮発・張群頭 (2003) 『清初の粵語音系——《分韻撮要》の声韻系統』《第八届國際粵方言研討會論文集》206-223.

- 羅言癸(2013)『澳門粵語音系的歷史變遷及其成因』北京大學博士論文。
- 彭小川(1992)「粵語韻書《分韻撮要》及其韻母系統」『暨南學報(哲學社會科學)』4:153-159.
- 詹伯慧+張日昇(1987)『珠江三角州方言字音對照』香港：新世紀出版社。
- 張洪年(1972)『香港粵語語法的研究增訂版』香港：香港中文大學出版社2007年(初版1972年)。
- 張洪年(2000)「早期粵語裏的借詞現象」『語言變化與漢語方言：李方桂先生紀念論文集』台北：中央研究院、319-335.
- 張洪年(2003)「21世紀的香港粵語：一個新語音系統的形成」『第八屆國際粵方言研討會論文集』129-152.
- 張洪年(2016)「粵語上溯二百年：馬禮遜1815年的語音記錄」『漢語研究的新貌：方言、語法與文獻』香港：香港中文大學：319-348。

英文

- Cheung, Hung-Nin Samuel. (2006) One Language, Two Systems: A Phonological Study of Two Cantonese Language Manuals of 1888. *Bulletin of Chinese Linguistics* 1(1) : 171-199.
- Takekoshi, Minako. (2017) Cantonese as Learned by Missionaries in the 19th Century: Language Variation in *Easy Lessons in Chinese*. *Current Research in Chinese Linguistics* vol. 97(1) : 273-284.
- Yue Hashimoto, Anne O. (1972) *Phonology of Cantonese*. Cambridge: Cambridge University Press.

日文

- 高田時雄(2000)「近代粵語の母音推移と表記」『東方學報』72 : 740-754.
- 竹越美奈子(2013)「早期粵語資料の文体考——ウイリアムス『拾級大成』における文末助詞“呢”の用法を中心に——」『太田齋・古屋昭弘兩教授還曆記念中國語學論集』東京：好文出版pp. 332-341.
- 竹越美奈子(2017)「近代粵語效攝一等字の変遷」『東邦學誌』46(2) : 1-25.

表：近代粵語遇攝の二重母音化と早期粵語資料（竹越美奈子）

表 1²⁰ 現代広州語 [y] [œy] 韻字の中古音²¹

韻	攝	等呼	韻目	声母	例字	『分韻』	例外字
y	遇	合三	魚虞	知章日疑影	著諸茹魚於	第4韻	除[œy]
				泥精見曉	女娶去許		
œy	止	合三	支脂	来精知莊章日	淚嘴追衰水葢	第22韻	戾（蟹開四霽）
	蟹	合三	祭	精知章喻以	歲綴稅睿	第28韻	
		合一	灰泰	端来精	對推頽雷罪		

表 2 『分韻』第4韻代表字（44字）の現代広州音

漢字（声母）	中古音			現代広州音
	攝	等呼	韻目	
宁著住（知）諸殊主舒暑處 _上 處 _去 庶樹（章）茹（日）魚語（疑）於于嫗宇飫諭（影）	遇	合三	魚虞	y
閻呂女慮（泥）趨胥徐咀緒娶序取（精）拘居舉拒句去具渠（見）虛許（曉）除（知）				œy

表 3 『分韻』第22韻代表字（23字）の現代広州音

漢字（声母）	中古音			現代広州音
	攝	等呼	韻目	
雖隨嘴髓醉翠遂（精）追墜錘（知）揣衰（莊）誰水睡（章）葢（日）	止	合三	支脂	œy
歲（精）稅稅（章）睿（喻以）	蟹	合三	祭	
推（端）		合一	灰	
戾（泥）		開四	霽	
彙（喻云）	止	合三	微	ui, ei

表 4 『分韻』第28韻代表字（28字）の現代広州音

漢字（声母）	中古音			現代広州音
	攝	等呼	韻目	
背胚配培倍焙梅每昧（幫）會魁（見）賄誨回（曉）隈（影）	蟹	合一	灰泰	ui
推對腿退頽兌（端）雷（来）崔催罪碎（精）				œy
馁（泥）				ɔi
[虫雷]	不明			

²⁰ 黄錫凌（1941）に基づき、張洪年（1972）を参考に作成。

²¹ 少数の例外字については記載を省略したものがあ。以下同。

表5 現代広州語[y][œy]韻字の19世紀広州語資料における表記（原文の表記）

中古音	遇三		止合三 非見系	蟹合三	蟹合一 端系
	知章日疑影	泥精見曉母			
例字	著諸魚	女娶許	醉水淚歲		對雷罪
分韻	4		22		28
Morrison (1828)	u	uy	uy		uy
Bridgman (1841)	ü	ü ui	ui		úi, ui
Williams (1842)	ü	ü	ui		úi
Bonney (1854)	ü	ü oo-e	oo-e		oo-e
Williams (1856)	ü	ü	ui		úi
Devan (1858)	ü	ü öy, oÿ, üy, oy	ooy, oÿ		ooy
Chalmers (1859)	ue	ue*	ui		ooi
Chalmers (1878)	ue	ue*	ui		ooi, ui
Ball (1883)	ü	ui	ui		ui
Stedman & Lee (1888)	ü	ü	oi		ui
Chalmers (1891)	ue	ue*	ui		ooi, ui
黄錫凌 (1941)	y	œy	œy		œy
現代広州	[y]		[œy]		

* “呂宋緑” Emeraldの“呂”のみ ui.

表6 現代広州語[y][œy]韻字の19世紀下位方言資料における表記（原文の表記）

中古音	遇三		止合三 非見系	蟹合三	蟹合一 端系
	知章日疑影	泥精見曉母			
例字	著諸魚	女娶許	醉水淚歲		對雷罪
分韻	4		22		28
新寧	1883 ²²	i ui	ui		ui
新会	1889 ²³	ü úí	uí, úí		uí, úí
	1987 ²⁴	[i]	[ui]	[ui]	[ui]
東莞	1890 ²⁵	ü	uí		
	1987	[y]	[u] [ui]	[ui]	[ui]
香山	1896 ²⁶	ü	ü öü	úi, öü	
	1987 ²⁷	[y]	[œy]	[œy]	[œy]
順德	1900 ²⁸	ü	ü öü	úi, öü	úi
	1987	[y]	[y] [œy]	[œy]	[y] [œy]
現代広州	[y]		[œy]		

²² Don (1883)

²³ Ball (1889)

²⁴ 詹伯慧+張日昇 (1987)。以下同。

²⁵ Ball (1890)

²⁶ Ball (1896)

²⁷ 澳門 (市区)。

²⁸ Ball (1900)

表 7 遇攝の二重母音化 (Morrison 1828) (原文の表記)

遇一 (+遇三微母)				遇三			
声母	oo	ow	他	声母	u	uy	
幫 滂 並 明	布 舖	補布 舖普舖 蒲菩葡部簿步哺 模暮慕慕	菩 ooy				
端 透 定	都 度	都賭肚蠹 土吐兔 徒屠途塗囚度渡	肚				
泥 來	路	奴鶯怒 爐蘆魯櫓擄路賂露鱸鷺		泥 來		女 呂慮	
精 清 心	訴	租粗做 醋 蘇素訴	訴	清 從 心 邪		取娶 須	
微	務	無誣武舞侮務霧					
				見 溪 群		句居鋸舉矩 去 佢渠	
				曉		虛許	
他韻	鬚數 ^母	鬚數母	鬚	他韻			

□は発音の例字、下線は書面語・外来語・固有名詞で使用されたもの。以下同。

例：

蘇 SAPAN WOOD 蘇木 Sow muk (Morrison 1828: SAY)²⁹

菩 GOD 菩薩 Pooy sat (Morrison 1828: GOD)

RAISINS 葡提子 Pow tei tsze; 葡提子 Pooy tei tsz. (Morrison 1828: RAI)

District gods 土地菩薩 Tow te pow sat (Morrison 1828: TOW)

呂 MANILLA 小呂宋 Sew luy sung (Morrison 1828: MAN)

²⁹ 英語のsapan woodはマレー語sapangに由来する。

表 8 遇攝の二重母音化 Bridgman (1841) (原文の表記)

遇一 (+ 遇三微母)				遇三			
声母	ú[u]	ò[ou]	他	声母	ü[y]	ui[œy]	他
幫 滂 並 明		補譜布 鋪鋪普 部步捕葡簿哺菩 模墓	鋪 ó[ɔ] ³⁰				
端 透 定		都賭妬肚 土 囟杜度渡					
泥 來	奴 魯	奴怒努 妒路露		泥 來	女 呂	呂慮	
精 清 心	蘇素	祖倣 粗 蘇		清 從 心 邪	取娶聚 須 序徐	聚 須 緒	
微	無務	無務武					
				見 溪 群	句車舉居据俱拘鋸駒 去墟 佢具巨距渠拒	句 佢	
				曉	吁虛許		
他韻	母	鬚数母甫	鬚[y]	他韻			

表 9 遇攝の二重母音化 Williams (1842) (原文の表記)

遇一 (+ 遇三微母)				遇三			
声母	ú	ò	他	声母	ü	ui	他
幫 滂 並 明		補布 鋪鋪 蒲部步簿 墓					
端 透 定		都賭 土兔 徒途囟度渡杜					
泥 來	路盧魯	奴努怒 路路		泥 來	女 呂慮		

³⁰ “鋪” は[ou/ɔ] 2種類の表記があるが、同書の発音表記法はò[ou], ó[ɔ]なので、ó[ɔ]は誤植の可能性もある。

精 清 心	蘇	祖 做 粗 素		清 從 心 邪	取 娶 須		
微	無務	無武霧舞					
				見 溪 群	句俱居車 去 巨佢渠		駒 kau[kœu]
				曉	許虛		
他韻	母	数母		他韻			

魯 [lu]固有名詞：Lu state ～国 (Williams1842: 102)

盧³¹ [lu]gourd 葫～ (Williams1842: 67)

蘇 [su]人名：Su Yaupak ～友白 (Williams1842: 76, 77)

表10 遇攝の二重母音化 Bonney (1854) (原文の表記)

遇一 (+ 遇三微母)				遇三			
声母	oo	o	他	声母	ü	oo-e	他
幫 滂 並 明	蒼部葡	補布 鋪舖普 部步 墓					
端 透 定	都	土肚吐 徒凶渡					
泥 来	奴 路炉露櫓		怒[au]	泥 来	女	慮	
精 清 心	做 蘇	祖 粗醋		清 從 心 邪		娶趣 聚	取 o-ü
微		務無武舞					
				見 溪 群	矩句 去墟 佢		
				曉			
他韻	数鬚母			他韻			

菩 菩薩 [u]idol (Bonney1854: 12, 80, 90他多数)

蘇 耶穌 [u]Jesus (Bonney1854: 7, 11, 13, 53, 84, 94他多数)

³¹ “盧” の当て字と思われる。

表11 遇攝の二重母音化 (Williams 1856) (原文の表記)

遇一 (+ 遇三微母)				遇三			
声母	ü	ö	他	声母	ü	ui	他
幫 滂 並 明		補布譜 浦鋪舖普 哺簿捕蒲菩部葡歩 模摹暮募慕					
端 透 定		堵都賭蠹妒 土吐兔 徒凶渡鍍杜塗屠肚					
泥 来		奴努怒 盧路炉蘆魯虜賂露鷺櫓		泥 来	女 廬驢 ³² 閭呂侶旅慮屢縷		
精 清 心	穌蘇酥訴素	做祖組 粗措錯醋 塑		清 從 心 邪	趨蛆取娶趣 須需絮 緒徐		
微		務無武巫誣毋撫廡侮鵠舞霧					
				見 溪 群	拘駒 墟去区馭 渠佢拒距		
				曉	虛吁許噓		
他韻	脯甫 ³³	數鬚母戊		他韻	裏彙僞戾淚類累衰水稅歲		

表12 遇攝の二重母音化 (Devan 1858) (原文の表記)

遇一 (+ 遇三微母)				遇三			
声母	oo	o	他	声母	ü	üy 他	他
幫 滂 並 明	布 蒼	補布圃 舖 簿菩部葡蒲 墓	普[ɔ]				
端 透 定		賭都妒 吐 度徒凶渡肚					
泥 来	路	奴 炉蘆露路		泥 来	女 呂 öy, oÿ		

³² “廬驢” 現代広州語[lou], analogical reading. (Hashimoto 1972: 649) ただし“驢”は黄錫凌(1941)では[loey].

³³ “脯甫[fu]”。両字は現代広州語でも“脯[fu/p'ou]”、“甫[fu]”。いずれも文読である (Yue 1972: 414, 425)。

精 清 心	蘇	做祖 粗醋 訴		清 從 心 邪		娶 üy, oy, oÿ 聚 üy	
微		無武舞霧毋					
				見 溪 群	鋸句居據 墟去 渠佢		
				曉			
他韻		數鬚母		他韻		會水對 ooy, 杯 ooÿ, 乳 oy, oÿ, 醉 oÿ	

- 布 [pu]外来語：pudding ～顛 (Devan1858: 28)
[pou]白話層：pillow case 枕頭～ (Devan1858: 20), sponge 水～ (Devan1858: 21), table cloth 檯～ (Devan1858: 23) 他類例多数
- 菩 [p^hu]文語：Idol ～薩 (Devan1858: 114, 120他)
[p^hou]白話層：rasins ～提 (Devan1858: 30)
- 路 [lu]外来語：Luke ～加書 (Devan1858: 110)
[lou]白話層：road (Devan1858: 40, 68, 55他), way (Devan1858: 51, 53, 54他) 他類例多
- 蘇 [su]外来語：Jesus 耶～ (Devan1858: 114他) 他類例多数
- 普 [p^hɔ]外来語：Prussian ～魯士人 (Devan1858: 8)
- 呂 [ɔey]Spaniard 大呂宋人 Tai loÿ sung yan (Devan1858: 8)
[ɔey]segar 呂宋烟 Löy soong yin (Devan1858: 28)
- cf.
- 布 [pu]外来語：custard pudding 牛奶～ (Morrison1828: GO)
[pu]外来語：milk pudding 牛乳～顛 (Morrison1828: 飲食類全)
[pou]白話層：a cloth bag ～袋 (Morrison: BAL)
- 母 [mu]文語層：Mangtsze's mother 孟～ (Morrison1828: NEV)
[mou]白話層：a sow 豬～ (Morrison1828: CHU) 雌ブタ

表13 遇攝の二重母音化 (Chalmers 1859) (原文の表記)

遇一 (+遇三微母)				遇三			
声母	oo	o	他	声母	ue	ui	他
幫	補布佈	補布譜佈					
滂	鋪普舖						
並	蒲蒼部步葡	捕哺菩					
明	墓模暮慕						
端	都	賭妒					
透		土吐兔					
定		徒凶渡屠塗肚度鍍					

泥 来		怒奴 路魯妒露櫓蘆鷺賂賂		泥 来	女 慮慮呂	呂	
精 清 心	素 <u>穌蘇</u>	做祖租 粗醋 訴蘇		清 從 心 邪	取 聚 需須絮 緒序		
微	務無舞霧武鷓						
				見 溪 群	居據句舉矩 去 佢拒距		
				曉	許虛		
他韻	母脯	數鬚母		他韻			

穌 [su]外来語：Jesus 耶穌(Chalmers1859: 79)

蘇 [su]外来語：Sapan-wood 蘇木 (Chalmers1859: 122)

呂 [y]Manilla (Chalmers1859: 88)

[y]Spain (Chalmers1859: 131)

[œy]Emerald (Chalmers1859: 47)

表14 遇攝の二重母音化 (Chalmers 1878) (原文の表記)

遇一 (+遇三微母)				遇三			
声母	oo	o	他	声母	ue	ui	他
幫 滂 並 明	補 鋪 蒲菩部步葡 臺模暮慕	補布譜佈 鋪普鋪 捕部簿菩蒲步葡					
端 透 定	都	賭妒 土吐兔 徒凶渡屠塗肚度鍍杜					
泥 来		怒奴 路魯妒露櫓蘆鷺賂虜鷓		泥 来	女 慮呂	呂	
精 清 心	素 <u>穌蘇</u>	做祖租 粗 訴蘇素		清 從 心 邪	趣取 聚 絮須 緒		
微	舞霧武鷓	務無霧					

				見 溪 群	居矩據句 去 具渠佢		
				曉	許虛		
他韻	母	數鬚母		他韻			

- 呂 [y]呂宋烟 lue - suung - in, Cigar (Chalmers1878: 37)
 [œy]呂宋綠 lui - suung - luuk, Emerald (Chalmers1878: 72)
 [y]小呂宋 siu - lue -- suung, Manilla (Chalmers1878: 135)
 [y]呂宋 lue - suung, Spain (Chalmers1878: 209)

表15 遇攝之二重母音化 (Chalmers 1891) (原文の表記)

遇一 (+遇三微母)				遇三			
声母	oo	o	他	声母	ue	ui	他
幫 滂 並 明	鋪鋪 蒲蒼部步葡 墓模暮慕	補布譜佈 鋪普舖 捕部菩蒲步葡 募					
端 透 定	都	賭妒蠹 土吐 徒囟屠塗肚度鍍杜					
泥 来	蘆	怒奴 路魯炉露蘆鷺路鷓		泥 来	女 慮呂	呂	
精 清 心	穌蘇	做祖租 粗 訴蘇素		清 從 心 邪	取娶 聚 絮須 緒		
微	舞霧武鶻務無	務無霧					
				見 溪 群	居句據矩 去 渠佢		
				曉	許虛		
他韻	母	數鬚母甫		他韻			

- 呂 [y]呂宋烟 lue - suung - in, Cigar (Chalmers1891: 42)
 [œy]呂宋綠 lui - suung - luuk Emerald (Chalmers1891: 82)
 [y]小呂宋 siu - lue - suung Manilla (Chalmers1891: 154)
 [y]呂宋 lue - suung, Spain (Chalmers1891: 239)

表16 遇攝の二重母音化 (Ball 1883) (原文の表記)

遇一 (+遇三微母)				遇三			
声母	ú	ò[ou]	他	声母	ü	ui	他
幫 滂 並 明		布 鋪 部 葢					
端 透 定		都 賭 土 凶 渡 肚 度					
泥 来		路		泥 来		女*	
精 清 心		做 穌		清 從 心 邪		娶 取	
微		務 無					
				見 溪 群		去 佢	
				曉			
他韻		母数		他韻		杯水 ui	

* daughter, wife, woman

菩 [p^hou]文語 : Idols ~薩 (Ball1883: 26, 56)

穌 [sou]Jesus 耶~ (Ball1883: 26他多数)

表17 遇攝の二重母音化 (Stedman & Lee 1888) (原文の表記)

遇一 (+遇三微母)				遇三			
声母	u	o	他	声母	ü	ui	他
幫 滂 並 明	補 布 鋪 墓	布 部					
端 透 定	都 徒 渡 度						

泥 来	路炉			泥 来	女		
精 清 心	做租 蘇訴	租		清 從 心 邪	取		
微	霧務	霧					
				見 溪 群	句鋸舉 去 佢		
				曉			
他韻	数母	鬚		他韻			

表18 現代広州語效遇止蟹攝の19世紀広州語資料における表記（原文の表記）

中古音	效		遇					止蟹		蟹						
	1	2	3	4	5	6	7	8								
例字	抱老高	舖塗怒務	孤烏胡夫	著諸魚	女娶許	醉水淚歲	對雷罪	背梅魁賄								
分韻	12			4		22	28									
1828		ow		ow	oo		u		uy		uy		uy		ooy	
1841		ò	ú	ò	ú		ü		ü	ui		úi		úi		
1842		ò	ú	ò	ú		ü		ü		ui		úi		úi	
1854		o	oo	o	oo		ü		ü	oo-e		oo-e		oo-e		oo-e
1856		ò	ú	ò	ú		ü		ü		ui		úi		úi	
1858		o	oo	o	oo		ü		ü	üy 他		ooy 他		ooy 他		ooy 他
1859		o	oo	o	oo		ue		ue		ui		ooi		ooi	
1878		o	oo	o	oo		ue		ue		ui		ooi, ui		ooi	
1883		ò		ò	ú		ü		ü	ui		ui		úi		
1888		ó	u	o	u		ü		ü		oi		ui		ui	
1891		o	oo	o	oo		ue		ue		ui		ooi, ui		ooi	
1941		ou		ou	u		y		y	œy		œy		œy		ui
現代	[ou]		[u]		[y]	[œy]			[ui]							

1 效一 2 遇一非見系・遇三微母 3 遇一見系（疑母除外）・三非組（微母除外） 4 遇三知章日疑影母
5 遇三泥精見曉母（疑母除外） 6 止合三非見系・蟹合三 7 蟹合一端系 8 蟹合一幫系・見系

表19 現代広州語效遇止蟹攝の19世紀下位方言資料における表記（原文の表記）

中古音		效		遇						止蟹		蟹					
		1		2		3		4		5		6		7		8	
例字		抱老高		舖塗怒務		孤鳥胡夫		著諸魚		女娶許		醉水淚歲		對雷罪		背梅魁賄	
分韻		12						4				22		28			
新寧	1883		au		ou	u		i	ui		ui		ui		ui		oi
新会	1889		ò		ò	ú		ü	úi		úi		úi		úi		ói
	1987 ³⁴		[ou]		[æu]	[u]		[i]			[ui]		[ui]		[ui]		[ui]
東莞	1890		ò		ò	ú		ü			úi		úi				
	1987		[ou]		[ou]	[u]		[y]		[u]	[ui]		[ui]		[ui]	[i]	[ui]
香山	1896		ò	ú	ò	ú		ü		ü	öü		úi				öü 他
	1987 ³⁵		[ou]		[ou]	[u]		[y]			[œy]		[œy]		[œy]		[ui]
順德	1900		ò	ú		ú		ü		ü	öü		úi		úi		úi öü
	1987		[ɔ]		[ou]	[u]		[y]		y	[œy]		[œy]	y	[œy]		[ui]
現代広州		[ou]			[u]		[y]		[œy]				[ui]				

1 效一 2 遇一非見系・遇三微母 3 遇一見系（疑母除外）・三非組（微母除外） 4 遇三知章日疑影母
5 遇三泥精見曉母（疑母除外） 6 止合三非見系・蟹合三 7 蟹合一端系 8 蟹合一幫系・見系

受理日 平成30年10月4日

³⁴ 詹伯慧・張日昇（1987）。以下同。

³⁵ 澳門（市区）。